

平成十八年度
今治明德短大

歩き遍路体験学習レポートから

②

伊藤奈保子

(食物栄養)

大寶寺本堂前で寺の縁起を
紹介、無事結願

私は四泊五日の体験学習から「遍路はたくさんの人と出会い、人と人の繋がりを深くする」と思いました。

生きて行く中で、いろいろな人と関わることは難しいと思います。しかし遍路中、見ず知らずの人との挨拶やお接待の一つ一つが温かく優しく心に染み込み、体がふつと軽くなる。疲れがどこかに飛んでいき、「がんばろう」という気持ちになるのです。誰かに出会うということだけでなく、お遍路の



心に染み込むお接待

中に「出会い」という場面は詰まっています。例えば今歩いている道であつたり自然だつたり。道を通していろいろな出会いがある、これも地域

の人たちが道を整備してくださるおかげとしたいと思います。「がんばろう」とい

しら冷たい印象がありました。でも、本来人間は助け合いながら生きて行くものと再確認できました。一二〇〇年もの間続いてきた遍路。昔は白装束(死装束)を纏い、死ぬために歩き続けたと聞きました。何時死ぬかも分からない中お接待を受け、「生きていてよかった」と思いながら歩き続けたのだらうと思います。今も昔も人の温かさ、お接待のありがたさは変わらないでしょう。

自分の生まれた愛媛、四国を歩いてみて「自分の視野はとても狭いものだった」と実感しました。車だと通り過ぎて行く景色も、歩くことによつて知らなかったことを知り、自分の肌で実感する。この自然を守って行かなければならないと思いました。

いま四国遍路を世界遺産に登録しようという運動が進んでいると聞きました。世界遺産といえは場所や物をイメージしてしましますが、人の温かさなど全てを含めてお遍

路だと思っています。物だけでなく、心を世界遺産にできるのでしょうか。

ともあれ私がお遍路でいただいたお接待の心を、歩いて学んだことを伝えて行きたいと思っています。